

[家庭・技術家庭]

「家族や家庭生活」、「家庭の仕事」に関心をもち、意欲的に学習に取り組む生徒の育成

－「家庭科の学習ガイダンス」における「協働型学習」による授業の展開の工夫－

野池知枝美*

1 主題設定の理由

生徒は中学に入学する現在に至るまで、家族や周囲の人々によって支えられて家庭生活を送っている。家庭生活には様々な「家庭の仕事」があり、それらを生徒の家族が中心になって行い家族の家庭生活を支えてくれている。

しかし、生徒は自分の「家族や家庭生活」に対して普段あまり意識せず、今の生活を当たり前だと思っているのが現状である。「家庭の仕事」について生徒は、たまに手伝いをしたり、自分に分担された仕事をしたりするが、実際に家族が具体的にどのような仕事を行っているかは、あまり理解できていない。「家庭の仕事」に対して興味はあるものの、小学校の家庭科の衣食住の学習で快適に家庭生活を送ったり、生活に役立てたりする内容で学んだことを自分の家庭生活の中で生かしていくには、「家族や家庭生活」に対する意識は低く、不十分な点も多い。

学習指導要領では、家庭分野の学習のねらいを、「生徒の生活の基盤となる家庭や家族の機能を理解し、衣食住などの生活にかかわる基礎的・基本的な知識及び技術を習得することによって、生活の自立を目指し、家庭生活をよりよく豊かに創造しようとする能力や態度を育成すること」と明記している。また、学習を体系的に行う視点から内容Aの(1)「自分の成長と家族」に小学校家庭科の学習（「A家庭生活と家族」の内容の「家族の成長と家族」、「家庭生活と仕事」、「家族や近隣の人とのかかわり」）を踏まえた家庭分野のガイダンス的な内容を設定し、3年間の学習の見通しをもたせるために第1学年の最初に履修させることとしている。

そこで、中学校の3年間を見通して興味・関心をもち学習が進められるように、「家庭科の学習ガイダンス」を中学1年生の家庭科の学習がスタートする段階で実施する。生徒が日頃あまり意識していない「家族や家庭生活」について、家庭や家族の機能、役割を考えさせていくために、「家庭科の学習ガイダンス」を最初に設定し、仲間との学び合い学習を行う。生徒がよりよい家庭生活を考えて実生活の中で実践していくには、実際にどのような「家庭の仕事」があるのかを再認識させることが必要となる。そのために、「家庭科の学習ガイダンス」では、具体的に各家庭で実施している「家庭の仕事」を生徒が考え検討することで、自分や自分の家族とのかかわりや、家庭や家族の機能についての意識を高められると考える。生徒には、これらの学習を通して、家庭生活に興味・関心を高めさせ、自分の成長と家族との関係や家庭生活の大切さ等にも気付かせていきたい。

さらに、仲間との「協働型学習」を行うことで、生徒は当たり前だと思っていた自分の家の家庭生活や「家庭の仕事」は、各家庭によって内容や方法に違いがあることにも新たに気付く。また、生徒は仲間の考えも取り入れながら「家族や家庭生活」、「家庭の仕事」について自分の考えを深めていくことができる。

「家庭科の学習ガイダンス」でこのような学習を展開することで、「家族や家庭生活」と「家庭の仕事」について自分や自分の家族とのかかわりや、家庭や家族の機能を考えて学習をすることは、その後の家庭科の学習をする上で、生徒が自分自身の課題をもち学習を進めていくことができる点から意義深いものであると言える。

2 研究の目的

家庭科の授業において、生徒が「家族や家庭生活」、「家庭の仕事」に関心をもち、意欲的に学習に取り組み、自らの学習の課題を見出すためには、仲間との「協働型学習」を効果的に取り入れていくことが有効であると考えられる。そこで、中学校の家庭科で最初に学習する「家庭科の学習ガイダンス」で、「協働型学習」が有効に機能するかどうかを検証することを目的として研究を進めていく。

* 長岡市立東北中学校

3 研究仮説

「家庭科の学習ガイダンス」において指導方法の工夫を図るために、「家族や家庭生活」、「家庭の仕事」を中心に題材計画や授業の展開を工夫し、仲間との「協働型学習」をすることで、生徒は自分の「家族や家庭生活」に関心を持ち意欲的に学習に取り組み、実生活の改善や今後の自分自身の課題をもつであろう。

4 研究の方法

- (1) 1年生家庭科の「家庭科の学習ガイダンス」で「協働型学習」を位置付けた題材計画を検討し、授業実践を行う。
- (2) 1年生家庭科の授業のスタート時（4月～5月）において、生徒の学習する様子を記録し検討する。
- (3) 生徒の学習の記録（ワークシート等）や学習の振り返りを蓄積し、分析を通して仮説を検証する。

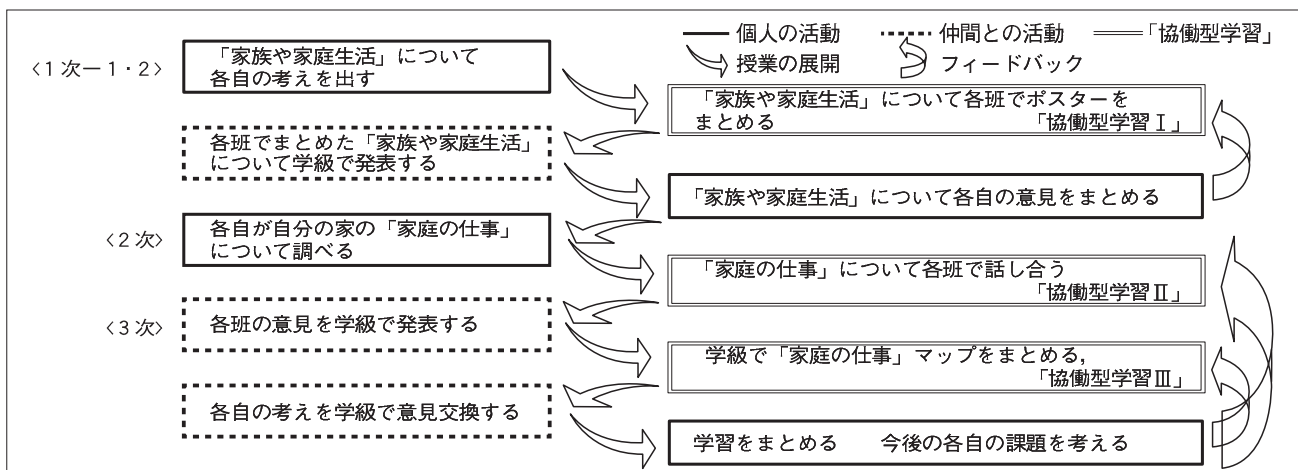
5 研究の内容

- (1) 「家庭科の学習ガイダンス」における題材計画や授業の展開の工夫
 - ① 題材計画の工夫を図る
 - ア 中学1年生の家庭科のスタートで「家庭科の学習ガイダンス」を効果的に行うために題材配列の工夫を図る。
 - イ 1次では、「家族や家庭生活」を中心に学習を進める。2次では、「家庭の仕事」を中心に学習を進める。3次では、「家庭の仕事」マップをまとめ、今後の各自の課題を考えられるようにする。
 - ② 今後の自分の課題がもてるように学習を展開する
 - ア 自分の家庭の実態を把握しながら、学習が進められるように学習課題を工夫する。
 - イ 今後の自分の課題がもてるように学習を展開する。
 - ③ 題材計画の中に「協働型学習」を位置付ける

家庭や家族の機能、「家庭の仕事」について仲間との学び合い学習で検討し、生徒の学びを深めていくために「協働型学習」を題材計画の中に効果的に位置付ける。
 - ④ 教材教具の工夫を図る
 - ア 生徒が学習しやすいようにワークシートを工夫する。
 - イ 話し合いがしやすいように班のまとめ用のポスター、学級掲示用のマップを工夫する。
- (2) 効果的な「協働型学習」の場面設定の工夫
 - ① 学び合い学習が効果的に行えるように場面設定を工夫し、「協働型学習」を実施する
 - ア 班での話し合い活動をするためにファシリテーションを取り入れた「協働型学習」を行う。
 - イ 自分の現状や今後の学習の見通しや課題をもつ段階に、学び合い学習の場面設定を行う。
 - ② 話し合いの仕方を工夫する

仲間との学び合い学習を効果的に行うために、班での話し合い活動や学級での話し合い活動を取り入れる。
 - ③ 各自の考えをまとめるために、「協働型学習」を効果的に活用する

「協働型学習」で学んだことを基に、自分の考えが深められるようにフィードバックする。
- (3) 「家庭科の学習ガイダンス」の学習の流れと「協働型学習」の位置付けの工夫



6 研究の実際

(1) 題材計画の工夫

- ① 題材名 「家庭科の学習ガイダンス」 — 「家族や家庭生活」、「家庭の仕事」について考えよう—
- ② 題材の目標 「家庭科の学習ガイダンス」において「家族や家庭生活」、「家庭の仕事」について、仲間との学び合いを通して考えることで、「家族や家庭生活」に関心を持ち、今後の家庭科の課題を考え学習に意欲的に取り組もうとする。
- ③ 題材計画 1学年（6時間，4～5月に実施）5組・8組（各学級：男子18名・女子15名・合計33名）

時間	学習内容	学習課題 ・ 生徒の活動	教師の手立て
1次 1 (1)	家庭科の授業の概要についての説明 「家族や家庭生活」について考える。	<p>「家庭科の授業の進め方や概要を確認しよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭科の授業の進め方や注意点について学習の手引きを用いながら確認をする。 各自が「家族や家庭生活」に関することをノートに記入する。 ノートを見ながら1項目につき1枚の付箋に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 技術・家庭科の学習の手引きで授業の確認をする。 各自が意見を持ち、班で話し合いがスムーズに行えるように付箋に記入させる。
1次 2 (2)	「家族や家庭生活」について班で話し合いポスターにまとめる。 各班でまとめた「家族や家庭生活」について発表する。	<p>「家族や家庭生活」について各班でまとめよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 付箋を用いて「家族や家庭生活」について、ファシリテーションをしながら、互いに意見交換をする。 班のまとめ用のポスターを作成しながら話し合ったことをまとめる。班の話し合いの結果や大切な点をまとめる。 各班で話し合ったことを全体に工夫してポスターを使って班員で協力しながら工夫して発表し、意見交換をする。 仲間との学びをフィードバックしながら、「家族や家庭生活」について自分の考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3～4人の班を編制する。 各班で付箋を用いながら自分の意見を発表させる。 「協働型学習Ⅰ」 各班で工夫して話し合い、ポスターをまとめさせる。 ワークシートに各班の話し合いの記録や各自の考えを記入させる。
2次 (1)	自分の家の「家庭の仕事」を調べる。 各自が調べた「家庭の仕事」を分類する。 各自が分類した「家庭の仕事」を班で発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 各自が事前に家庭でしている仕事を調べノートに記入する。 「家庭の仕事」についてまとめよう 「家庭の仕事」を各自が4つに分類しワークシートに記入する。 ①食生活にかかわる仕事 ②衣生活にかかわる仕事 ③住生活にかかわる仕事 ④「家族や家庭生活」にかかわる仕事 各班で各自が分類した「家庭の仕事」を発表し合う。 仲間の意見をワークシートに記録する。 各班で分類した仕事を色分けした付箋に記入し、黒板に掲示した「家庭の仕事」マップに各班で記入した付箋を貼る。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の宿題で家庭で自分の家の仕事を調べさせる。 ワークシート（各自の考えの欄）に分類させ、各班で意見をまとめさせる。 「協働型学習Ⅱ」 各班の意見を付箋に記入させ黒板の「家庭の仕事」マップに掲示させる。
3次 (2)	学級で「家庭の仕事」について話し合い、「家庭の仕事」マップを完成させる。 「家庭の仕事」マップから今後の学習の課題を考える。	<p>「家庭の仕事」マップをまとめ、今後の課題を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級全体で、各班で記入した付箋を用いながら互いに意見交換をする。2次から行ったことに加えて再度、分類や内容を見直し「家庭の仕事」マップを完成させる。 ①毎日行う仕事 ②時々・週に数回行う仕事 ③季節・1年で数回行う仕事 学習を通して分かったことや今後の自分の課題をワークシートに記入する。仲間との学びをフィードバックする。 互いに意見交換ができるように学習を通して分かったことや今後の自分の課題を発表する。 	<p>「協働型学習Ⅲ」</p> <ul style="list-style-type: none"> 意見交換をしながら学級全体で話し合わせる。 生徒の考えが不十分な場合は、考えが深まるように補足説明を加える。 学習のまとめとして、学習を通して各自が考えたことや今後の課題をワークシートに記入させる。

(2) 授業の実際

- ① <1次-1> 「家庭科の授業の進め方や概要を確認しよう」
- ア 最初の授業で、授業の進め方や注意点、持ち物等を技術・家庭科の学習の手引きを用いて確認をしていった。
- イ 毎時間の授業で使用する家庭科学習カードの活用の仕方を確認した。家庭科学習カードには、題材の最初の授業でこの学習をするにあたっての自分の現状や今後の学習の課題を記入する。毎時間授業の開始時には、その日の授業の学習課題と自分の学習課題を記入する。また、授業の終わりには各自がその日の授業を振り返って、自己評価や学習課題の達成や授業で学んだこと、感想を記録する。

ウ 各自が「家族や家庭生活」に関することを考え、自分が思いつくだけノートに記入した。

エ 付箋をポスターに貼って活用しながら班の話合いがスムーズに行えるように、「家族や家庭生活」についてノートに記入した自分の意見を1項目につき1枚の付箋にペンで分かりやすいように記入し準備をした。

② <1次-2> 「家族や家庭生活」について各班でまとめよう

ア 各自か前時に記入した付箋を用いて話し合いを進めた。班のまとめ用のポスターに付箋を貼りながら互いに意見交換をしてファシリテーションを行い「協働型学習Ⅰ」を実施した。

イ 班で話し合うことで出てきた新しい意見は、色を変えた付箋に記入して、ポスターに貼っていった。

ウ 話し合いのまとめでは、班のまとめ用のポスターに班の話し合いの結果や「家族や家庭生活」について分かったことや大切な点をまとめて記入し完成させた。

エ 各班の発表では、「家族や家庭生活」について各班で話し合ったことが全体に分かるように工夫して、仲間と協力して発表した。各班の発表後、全体で意見交換を行った。

オ 各班の発表を聞いている生徒はワークシートに分かったことや参考になった点、工夫した点を記録していった。



写真1【各班の話し合いの様子】

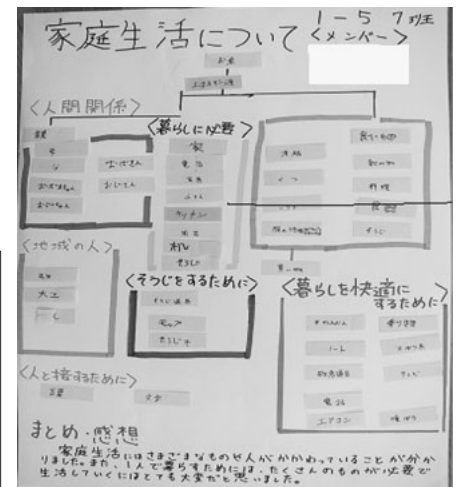


写真2【班のまとめ用ポスター】

— <1次-2> 「家族や家庭生活」の授業後の生徒のまとめ —

- ポスターのまとめ方でどの班もそれぞれ工夫していて、私達の班とは大きく違ってました。私達の班は衣食住にかかわるものや、ことをベースに考えました。他の班の人たちは、資源、家具、場所などにも分けていました。ポスターの内容では、家庭生活にはたくさんの人、もの、ことがかかわっていて、それらが私達の生活を支えています。逆に言えば私達は様々な人やものに頼っていることが分かりました。大人になれば今家族や人にしてもらっていることを自分でやらなければならないことも知りました。これから家庭科の学習で自立するための勉強をたくさんしたいと思います。(女子)
- 自分に似ている意見はあったけれど、全く違うまとめ方をしている班がたくさんありました。家庭生活では、自分が気付かなかったことも含め、普段たくさんの人やものに支えられて生活していることが分かりました。これからいろいろな人やものに感謝して、ものは最後まで大切に使い、エネルギーは無駄遣いしないように生活していきたいと思いました。(男子)
- 私達の家庭生活には、たくさんの人がかかわっていることを知りませんでした。私の気付かなかった生活している中での細かいことをみんなで発表し合うと見えてくるんだと思いました。班の人の発表でこんな考え方もあるんだな、ここは自分が気付かなかったなと思うところがいくつもあり、たくさん意見や考え方が出てよかったです。私はこの学習で違う家庭に住んでいても、生活では同じものや人とかがわっていることが分かりました。これから、私はこの学習を生かして今までかかわってきたものや人に感謝を伝えたいです。自分も家の家事や手伝いを頑張ろうと思いました。私はまだ家の仕事を知らないのこれから、家庭科でたくさん学ぼうと思いました。(女子)

③ <2次> 「家庭の仕事」についてまとめよう

ア 活動がスムーズに行えるように、前時の授業後に宿題として自分の家の「家庭の仕事」を調べた。

生徒は、自分で家庭の様子を調べたり、家族に質問したりして「家庭の仕事」をノートに記入しておいた。

イ 各自が家で調べたノートを見ながら「家庭の仕事」を4つの項目（食生活にかかわる仕事・衣生活にかかわる仕事・住生活にかかわる仕事・「家族や家庭生活」にかかわる仕事）に分類してワークシートに記入した。

ウ 各班で各自が分類した「家庭の仕事」を互いに発表し合って「協働型学習Ⅱ」を行った。仲間から出された「家庭の仕事」をワークシートの仲間の意見を記録する欄に記録した。

エ 各班で分類した「家庭の仕事」を分担しながら、4つの項目で色分けした付箋に記入した。黒板に掲示された学級掲示用の「家庭の仕事」マップに各班で記入した付箋を貼っていった。

④ <3次> 「家庭の仕事」マップをまとめ、今後の課題を考えよう

ア 学級全体で、各班で記入した付箋を用いて互いに意見交換をして「協働型学習Ⅲ」を行った。分類では4つ



写真3 【「家庭の仕事」マップに付箋を貼る様子】

写真4 【完成した「家庭の仕事」マップ】

の項目を3段階（毎日行う仕事、時々・週に数回行う仕事、季節・1年に数回行う仕事）で他の班の考えを聞きながら想起していった。イ 学級全体で意見交換をしながら学級掲示用の「家庭の仕事」マップを完成させていった。中には付箋の分類を変える班も出てきた。ウ 学習を通して分かったことや今後の自分の課題を考え、ワークシートに記入した。エ 互いに意見交換をして仲間の意見を参考にすることができるよう、学習を通して分かったことや今後の自分の課題を学級全体で発表した。

【家庭の仕事について考えよう】 1年 5期 生徒名

	食生活にかかわる仕事	衣生活にかかわる仕事	住生活にかかわる仕事	家族生活・家族にかかわる仕事
毎 日	朝食の準備 ・洗濯 ・掃除	朝飯(朝食)の準備 ・洗濯(洗濯機) ・お風呂	お風呂の準備 ・掃除 ・洗濯	お風呂の準備 ・掃除 ・洗濯
と ま り ・ 週 に 数 回	お風呂の準備 ・掃除 ・洗濯	お風呂の準備 ・掃除 ・洗濯	お風呂の準備 ・掃除 ・洗濯	お風呂の準備 ・掃除 ・洗濯
季 節 ・ 一 年 に 数 回	お風呂の準備 ・掃除 ・洗濯	お風呂の準備 ・掃除 ・洗濯	お風呂の準備 ・掃除 ・洗濯	お風呂の準備 ・掃除 ・洗濯
お ま け	お風呂の準備 ・掃除 ・洗濯	お風呂の準備 ・掃除 ・洗濯	お風呂の準備 ・掃除 ・洗濯	お風呂の準備 ・掃除 ・洗濯
家 庭 の 工 事 ま と め	お風呂の準備 ・掃除 ・洗濯	お風呂の準備 ・掃除 ・洗濯	お風呂の準備 ・掃除 ・洗濯	お風呂の準備 ・掃除 ・洗濯

図1 【「家庭の仕事」の生徒のワークシート】

〈3次〉「家庭の仕事」マップ作成後の生徒の感想

- 最初は家庭の仕事の半分位は手伝いができていると思っていたけれど実際にはほんの一部で、家族に感謝しないといけないと思った。中学生になったから家族にやらしてもらえばかりではなくて家族の一員として家庭の仕事を手伝っていきたい。(男子)
- 家庭の仕事クラスでまとめたらいっぱい仕事があり、親とかは本当に大変だということを改めて感じた。季節の仕事など自分の想像以上にたくさん出てびっくりした。親が自分達が居心地のいい部屋をつくらせてくれることに気付くうれしかった。(男子)
- 授業の最初で家庭の仕事自分で考える時は、あまり思いつかなくて意外と少ないんだなあと思った。でも、班で話し合ったりクラスのみんなの意見を見たりして、話し合いが深まると自分で出した意見よりも倍近く出てびっくりした。「なるほど」と思うものがたくさんあった。お父さんやお母さんはこれを全部やっているからすごい！皿出しなど私にできる仕事を積極的にやりたい。お母さんに他にどんな仕事があるか聞いてみようと思う。(女子)
- 家庭の仕事では、自分の家と他の人の家が違っているものが多くて驚いた。この学習で自分や他の人の考え方にも違いが多くあることが分かった。私の家ではやらない仕事とやるけれど忘れていた仕事、他の班から多く出た。これからはもっとよく考えようと思った。ここで出てきた仕事を自分も家で積極的にやっていこうと思った。(女子)

オ これまでの学習を振り返り、仲間との学びや意見も参考にしながら、今後の自分自身の学習の課題を考えてワークシートに記入していった。

〈3次〉の授業後の生徒の学習のまとめと今後の自分の課題

- 家庭生活では、これからは当たり前のことを当たり前だと思わないで生活していきたい。いつも家族からしてもらいたいから、自分の意見もあまり出ないものがあると思った。家の仕事を自分でやって当たり前になるようにしたい。(女子)
- 身の回りのものや仕事について学んで発表することで、自分にない考えを聞いて理解する力が身についた。家庭の仕事など普段意識しないことを考えることはおもしろいし、新たな発見があった。この授業で学んだことを生活の参考にしたい。(男子)
- 今回家庭生活について、いろいろな分野で調べたり、班やクラスの人と話し合ったりしました。始めはほとんど自分でできて

いると思っていたけれど、だんだん考えが変わってきました。今後は、親にばかり頼らずに自分のことは自分でやったり、親がやっていることを代わりにやったりしていきたいです。(女子)

- 各家庭での過ごし方、考え方、文化が違うことが今回の学習では、一番の発見であり、収穫だったと思う。それぞれの仕事の仕方にはメリット、デメリットがあるけれど効率の良さを第一により暮らしをしていきたい。この学習で分かったことを家でも積極的に実行していこうと思った。(男子)

カ 夏休みの課題として「家庭の仕事」を各自が計画を立て、家庭で実践した。

保護者の声（夏休みの課題を実施した生徒への保護者からの評価）

- 進んで仕事をやり頑張っていました。干すだけでなく、しわが寄っているところを直したりたたんだりができるとうれしいです。
○野菜がとてもおいしかった。自分で料理を作ると嫌いな野菜も食べてくれるからまたお願いしたい。
○全部の仕事をするのは大変だったようだ。一緒にやってみてコミュニケーションの機会になった。今後またやってほしい。
○洗濯物を丁寧にたたんでいました。ありがとう。これからも毎日してくれると助かります。

7 考察と今後の課題

(1) 「家庭科の学習ダイナミクス」の題材計画や授業の展開の工夫の視点からの考察

- ① 「家庭の仕事」では、自分の家庭の実態を調べたり、家族に聞いたりする活動を位置付けた。その結果、生徒は自分の家族や「家庭の仕事」に関心を持ち、学習に取り組んでいった。また「家庭科の学習ガイダンス」が効果的に行えるように題材計画の工夫を図ることで、生徒が主体的に「家族や家庭生活」や「家庭の仕事」の学習に取り組むことができた。
- ② 3次の授業後の振り返りでは、82%の生徒が、今後自分が家庭でできる仕事をしていきたいと記述していた。その後、夏休みの課題で「家庭の仕事」の実践では、94%の生徒が夏休み中に家庭で実施した。70%の生徒が衣食住で複数の種類の仕事を行った。中には、今まで自分がしていなかった仕事を夏休み中ほぼ毎日継続して、風呂掃除や食器洗いなどを行った生徒もいた。生徒が「家庭の仕事」を実施した家族から「よく頑張って仕事をしてくれた」「これからも是非続けてやってほしい」という感想も記述されていた。
- ③ 題材計画を工夫することで、生徒は、意欲的に学習に取り組み、実生活の中で改善できることや今後の自分自身の課題を考えることができ、家庭科の学習のスタートの「家庭科の学習ガイダンス」に、「家族や家庭生活」や「家庭の仕事」を位置付けることは有効であったと考える。

(2) 効果的な「協働型学習」の場面設定の工夫の視点からの考察

- ① 家庭や家族の機能、「家庭の仕事」について、仲間との学び合いによる「協働型学習」の活用を図ることで、生徒は仲間と検討し、自分にはない考えに気付き、実生活での改善点や今後の自分の課題に気付くことができた。
- ② 3次の授業後の振り返りでは、「仲間と話し合うことで、自分の考えを深めることができた」と答えた生徒が82%いた。班や学級の仲間と「協働型学習」をすることで生徒は、自分にはなかった新たな考えを仲間の意見によって気付かされた。また、今後、自分が家庭科の学習をするために必要な様々な考え方を取り入れていった。生徒はファシリテーションを通して仲間との「協働型学習」で得られた考えも取り入れながら、自分の考えをワークシートにまとめ、今後の実生活の在り方や自分の課題に言及することのできた生徒が多かった。
- ③ 「協働型学習」を効果的に授業に位置付けることで、生徒は仲間との学び合いにより、「家族や家庭生活」に関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、今後の課題をもつことができたと考える。

以上のことから、当研究における研究仮説は証明された。

(3) 今後の課題

今後の課題として、班のまとめ用のポスターや「家庭の仕事」マップを基に、生徒が自分の考えをまとめ、「家族や家庭生活」と「家庭の仕事」に生かすためのワークシート等、各自が具体的な形で表現できる形式の改善を図りたい。家庭で具体的な実践ができるように、課題設定や授業時間を工夫していきたい。

「協働型学習」を「衣生活・住生活の自立」など他の内容においても実践できるように工夫していきたい。

【参考文献】 文部科学省 「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」

新潟大学教育学部附属長岡校園 研究紀要 「社会的な知性を培う（第3年次）」2012.10.18